

令和7年（2025年）の秋田焼山の火山活動

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

GNSS 連続観測では 2020 年中頃から秋田焼山を挟む基線でわずかな伸びの変化が継続していますが、地震活動や熱活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025 年の発表履歴

2025 年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）
-------------	-----------------------------

○ 2025 年の活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1～11、図 13-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、湯沼の噴気の高さは噴気孔上 100m 以下、
さげびさわ 叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上 30m 以下で、噴気活動は概ね低調に経過しました。つがもり 梅森監視カメラによる観測では、湯沼や湯ノ沢上流、叫沢源頭部で弱い噴気が認められました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

3 月 11 日に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、前回の観測と比較して、叫沢源頭部、湯沼付近、湯ノ沢上流、トキワ沢上流及び叫沢中流域の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

8 月 28 日に実施した現地調査では、前回（2022 年 8 月 24 日）及び前々回（2017 年 9 月 13 日）と比較して、叫沢源頭部及び湯沼の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。空沼では、引き続き噴気及び地熱域は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 12、図 13-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
 火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 14、図 15）

GNSS 連続観測で認められている 2020 年中頃の秋田焼山（及び八幡平）を挟む基線の伸びの変化は継続しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。
 本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の状態（11月5日）

- ・東北地方整備局が設置している焼山監視カメラ（山頂の西約2km）の映像です。
- 注）監視カメラからは直接見えませんが、黄破線が湯沼の位置を示します。湯沼から噴気が噴出した場合は高さ50m以上のときに観測されます。

湯沼の噴気の高さは噴気孔上 100m以下、叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上 30m以下で、噴気活動は概ね低調に経過しました。



図2 秋田焼山 湯沼と湯ノ沢上流の状況と地表面温度分布

- ・左図：梅森監視カメラ（湯沼の東約1km）の可視映像（11月6日）です。
- ・右図：梅森監視カメラ（湯沼の東約1km）の赤外映像（11月4日）です。

湯沼や湯ノ沢上流、叫沢源頭部で弱い噴気が認められました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

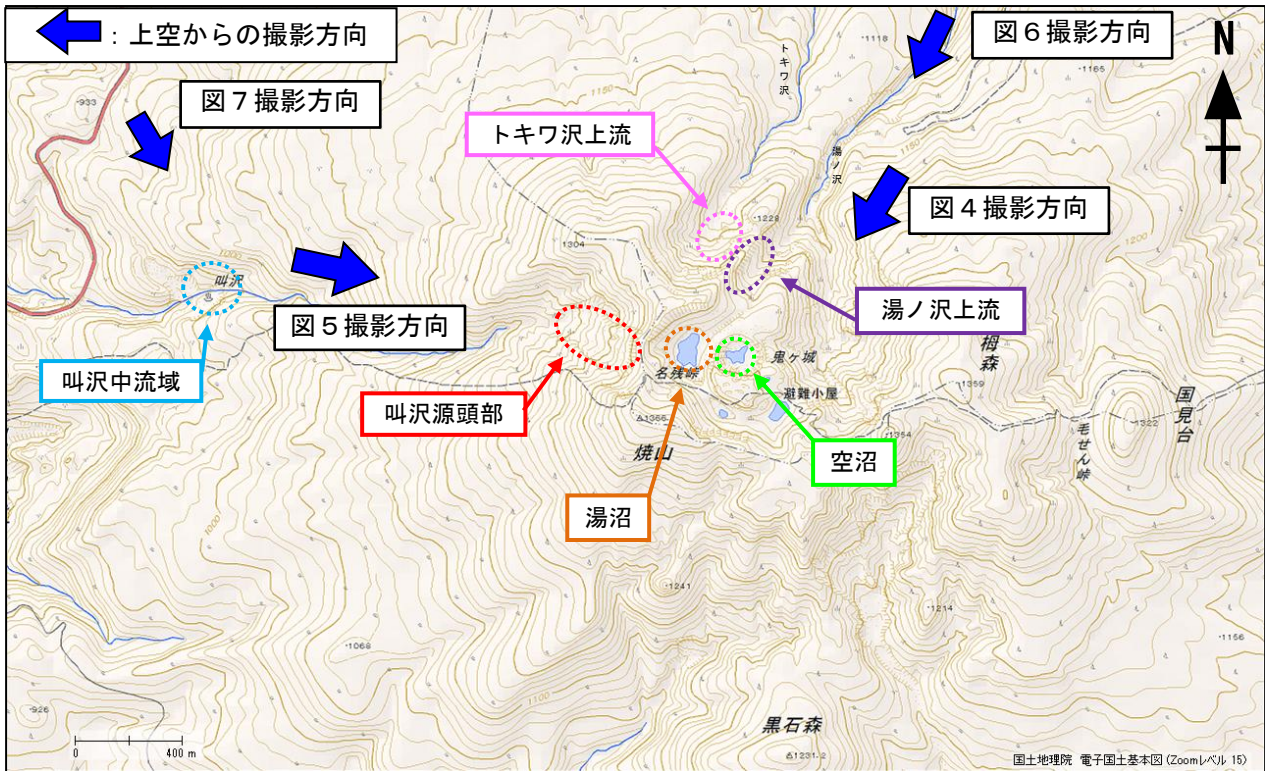


図3 秋田焼山 地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影方向

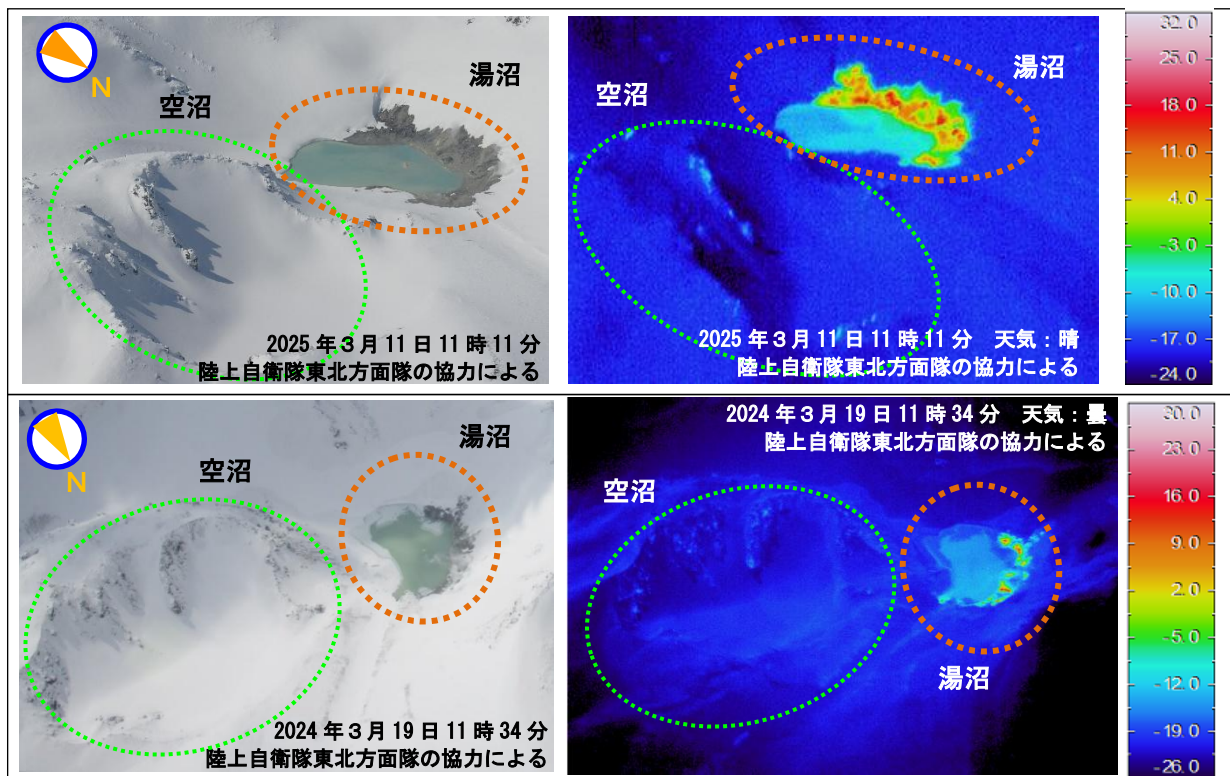


図4 秋田焼山 上空から撮影した湯沼及び空沼の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図3の破線の色に対応します。

湯沼の地熱域に特段の変化はありませんでした。空沼では地熱域は認められませんでした。湯沼では高さ 30m 程度の噴気が認められました。

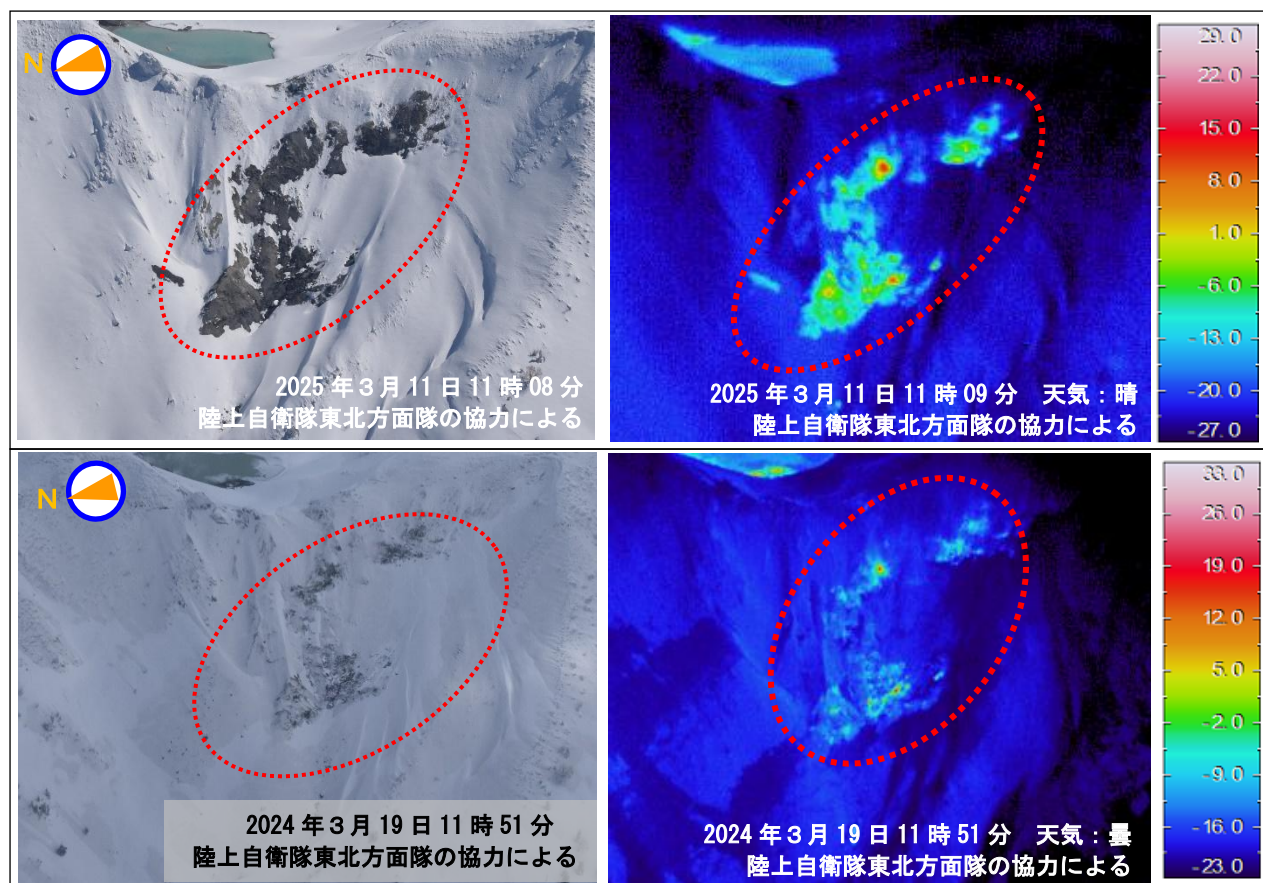


図5 秋田焼山 上空から撮影した叫沢源頭部の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図3の破線の色に対応します。

地熱域に特段の変化は認められませんでした。叫沢源頭部では高さ30m程度の噴気が認められました。

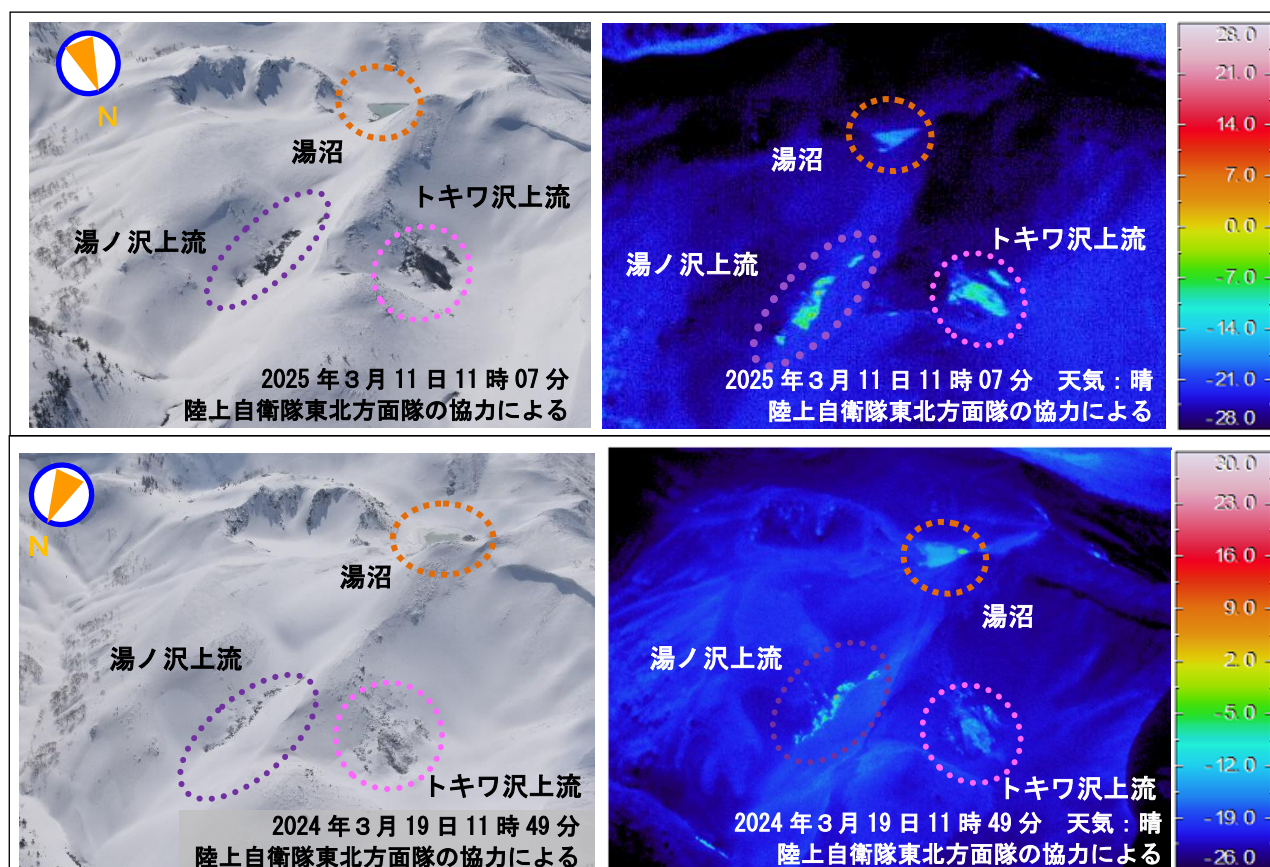


図6 秋田焼山 上空から撮影した湯ノ沢及びトキワ沢上流の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図3の破線の色に対応します。

湯ノ沢上流及びトキワ沢上流では弱い噴気が認められましたが、地熱域に特段の変化は認められませんでした。

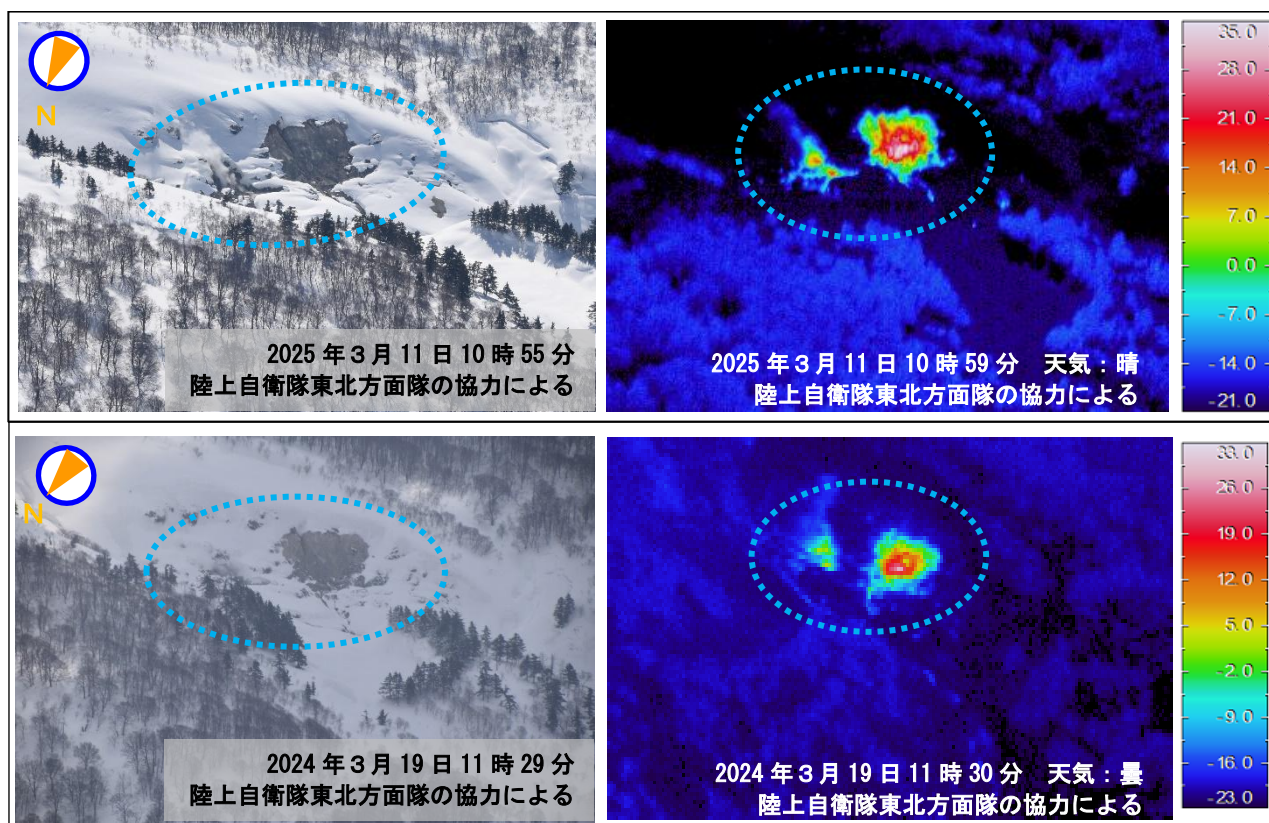
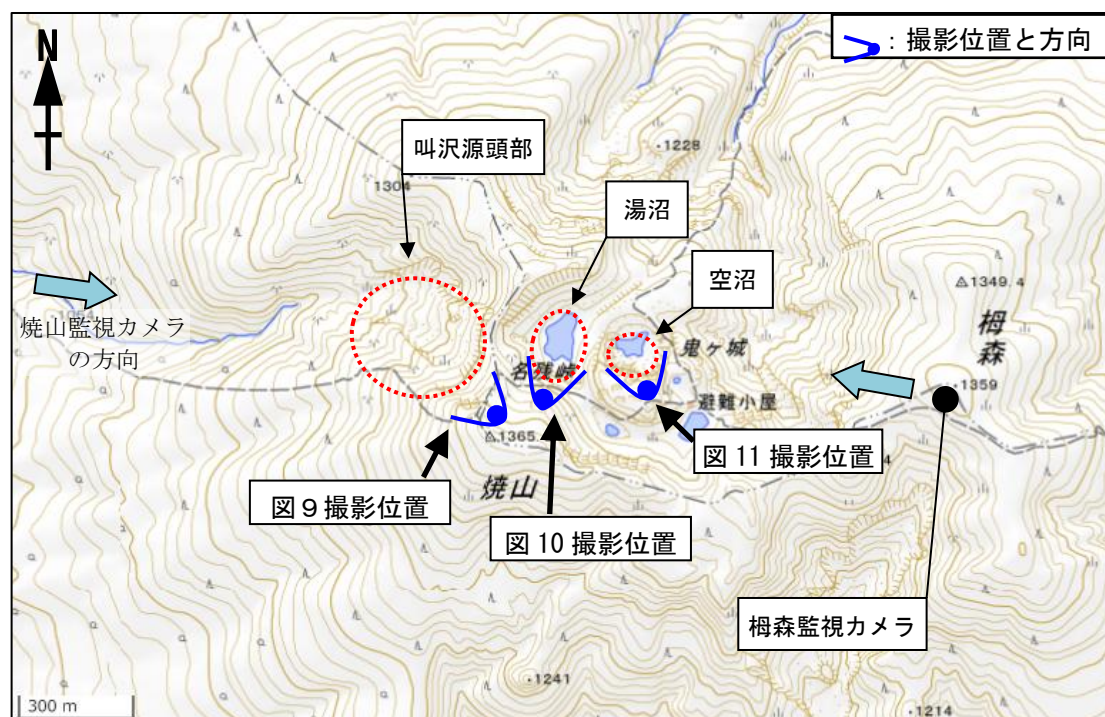


図7 秋田焼山 上空から撮影した叫沢中流域の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図3の破線の色に対応します。

叫沢中流域では高さ30m程度の噴気が認められましたが、地熱域に特段の変化は認められませんでした。



電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成

図8 秋田焼山 叫沢源頭部、湯沼及び空沼の写真と地表面温度分布撮影位置

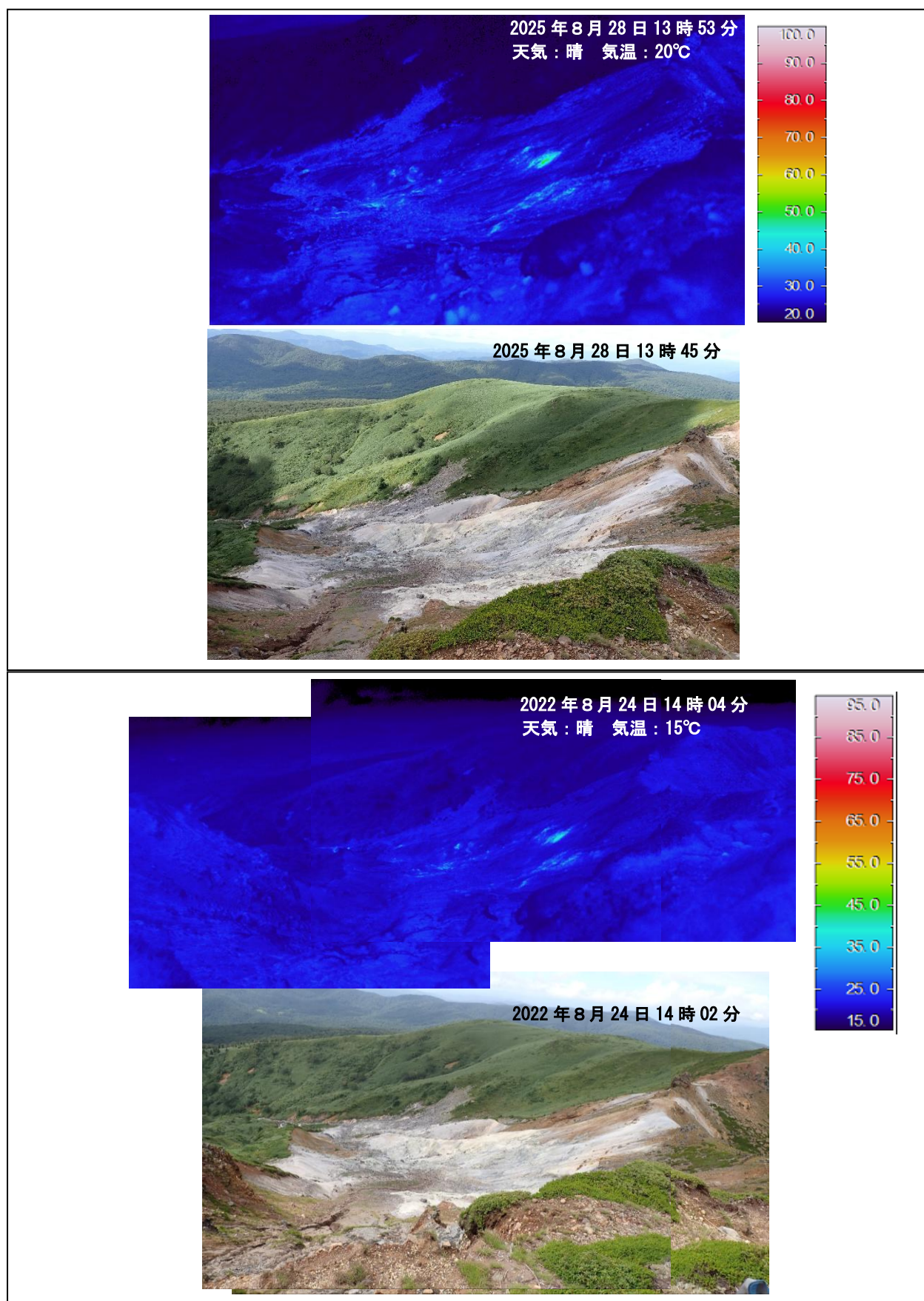
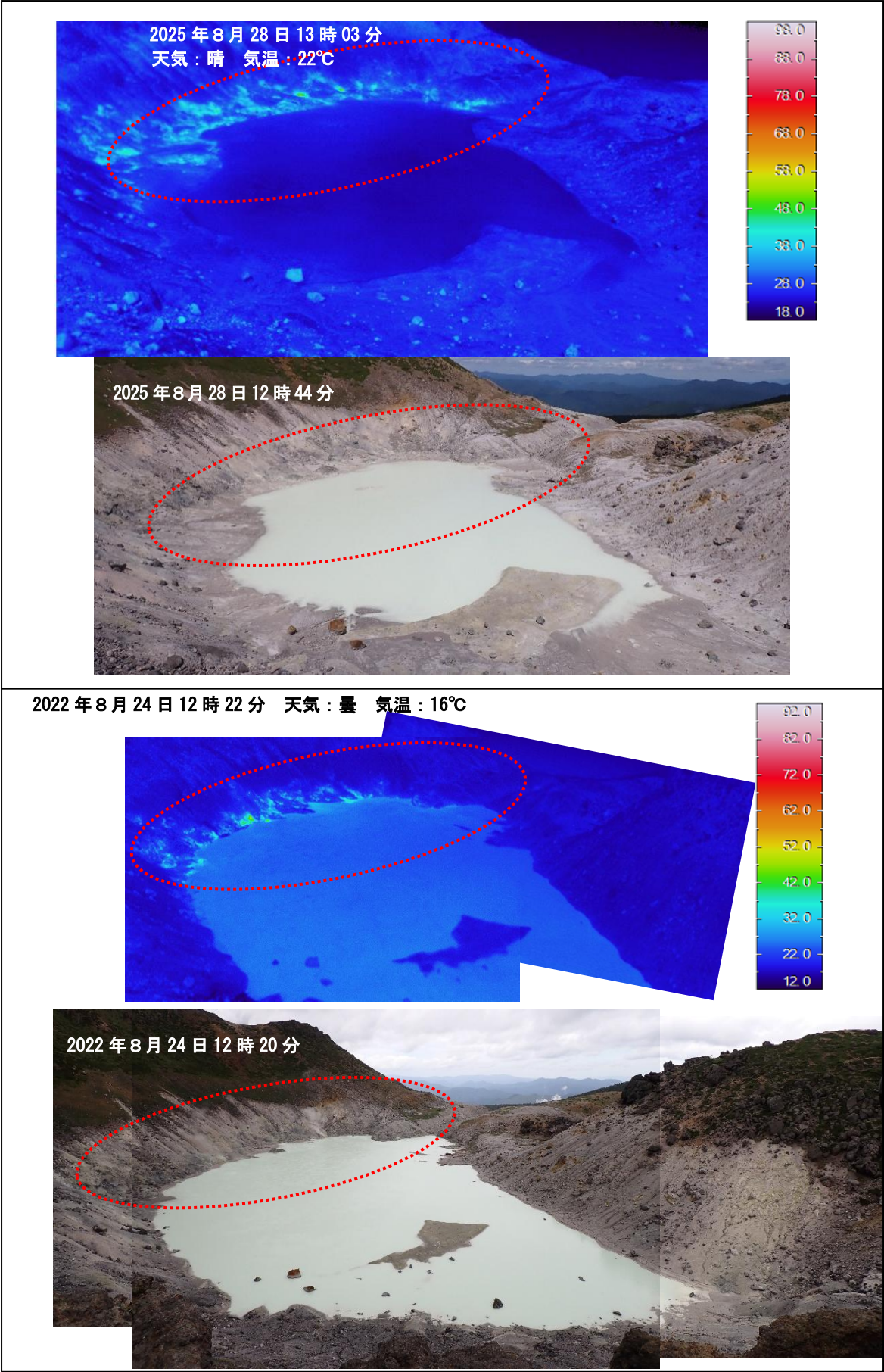


図9 秋田焼山 南東から撮影した叫沢源頭部の状況と地表面温度分布

前回（2022 年 8 月 24 日）と比較して、噴気及び地熱域（赤破線）の状況に特段の変化は認められませんでした。



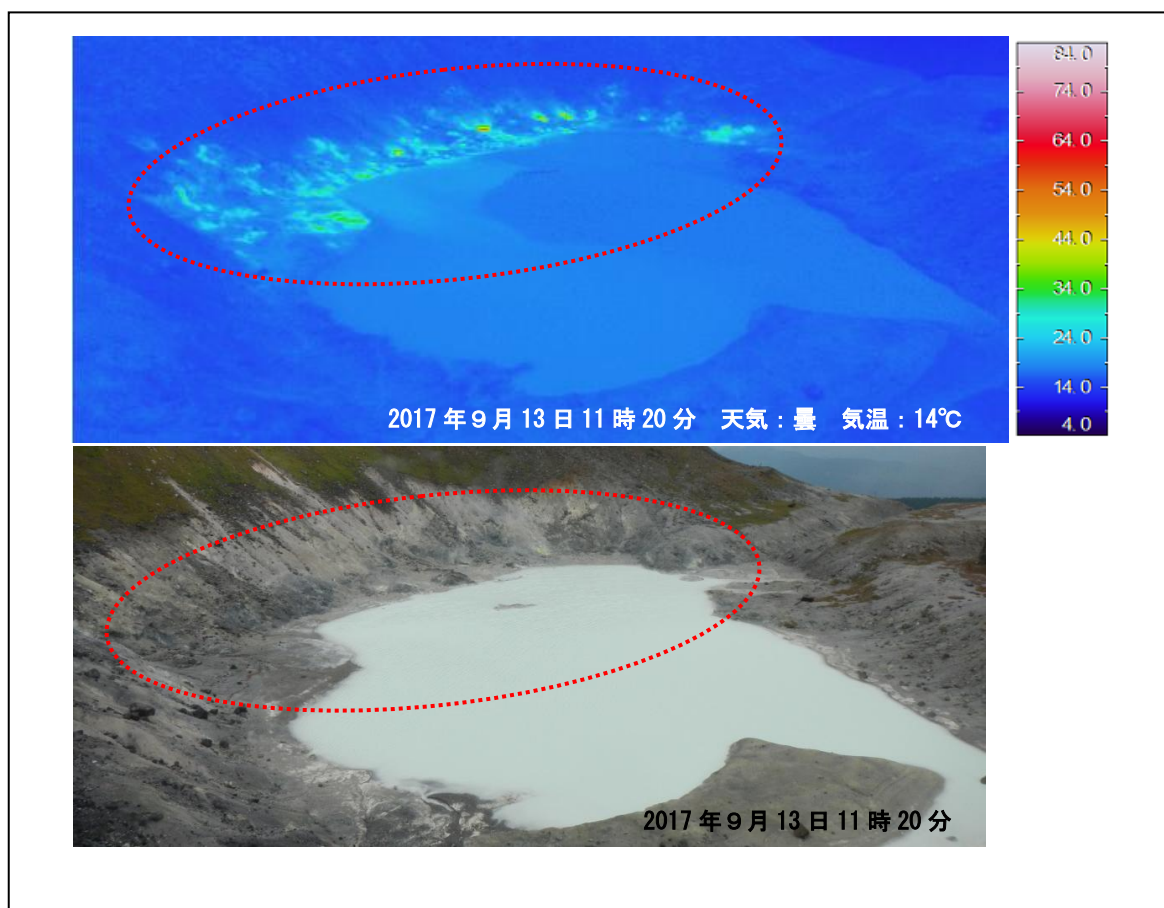


図10 秋田焼山 南から撮影した湯沼の状況と地表面温度分布

・前回以前と今回において湯沼の撮影範囲が異なります。

前回（2022年）と比較すると水位が低下しているため、噴気及び地熱域（赤破線）の見え方に違いがみられますが、今回とほぼ同じ水位の時に現地調査を行った前々回（2017年）と比較すると噴気及び地熱域（赤破線）の状況に特段の変化は認められません。

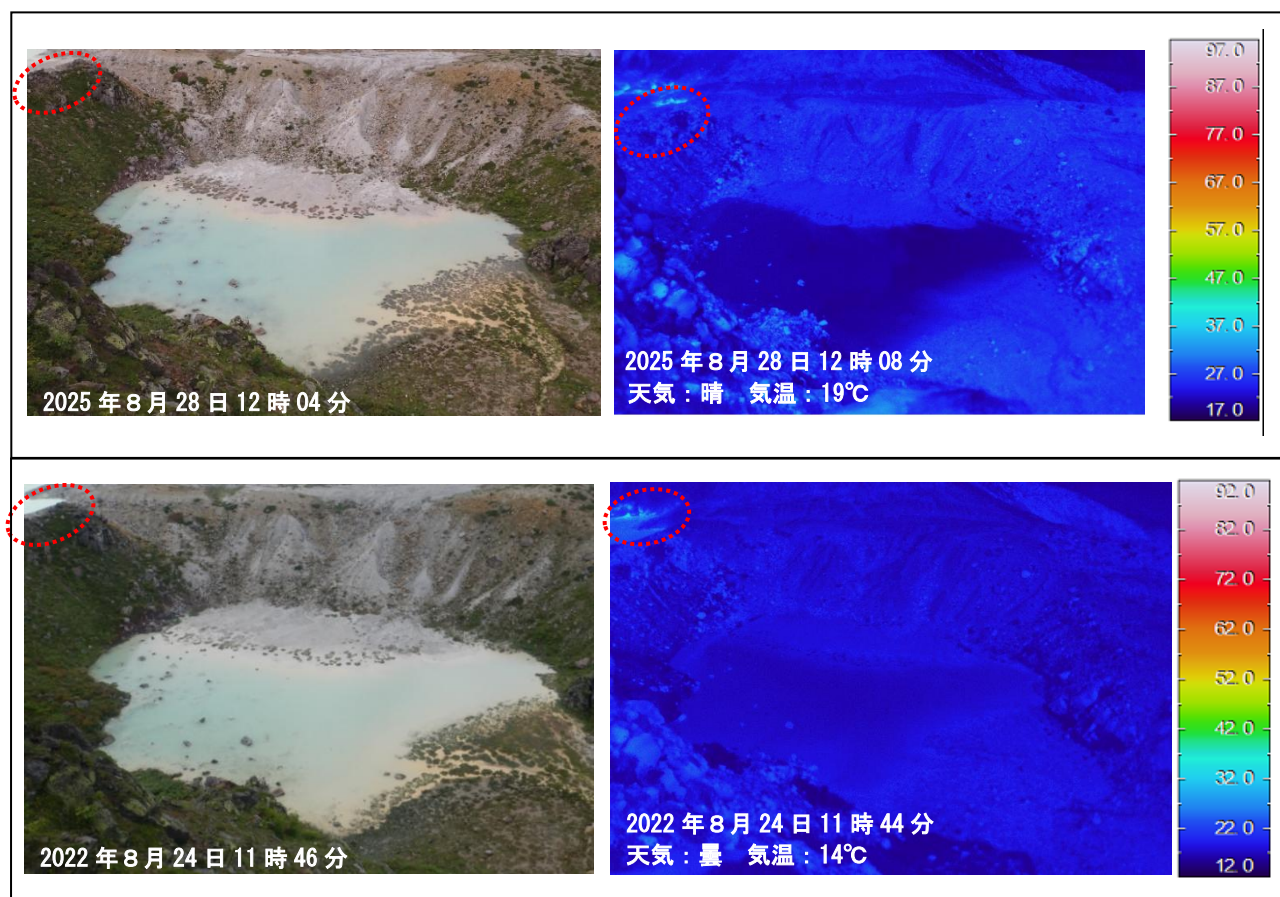


図11 秋田焼山 南から撮影した空沼の状況と地表面温度分布

・赤破線は湯沼周辺の地熱域です。

前回（2022年8月24日）と同様に、空沼周辺に噴気及び地熱域は確認されませんでした。

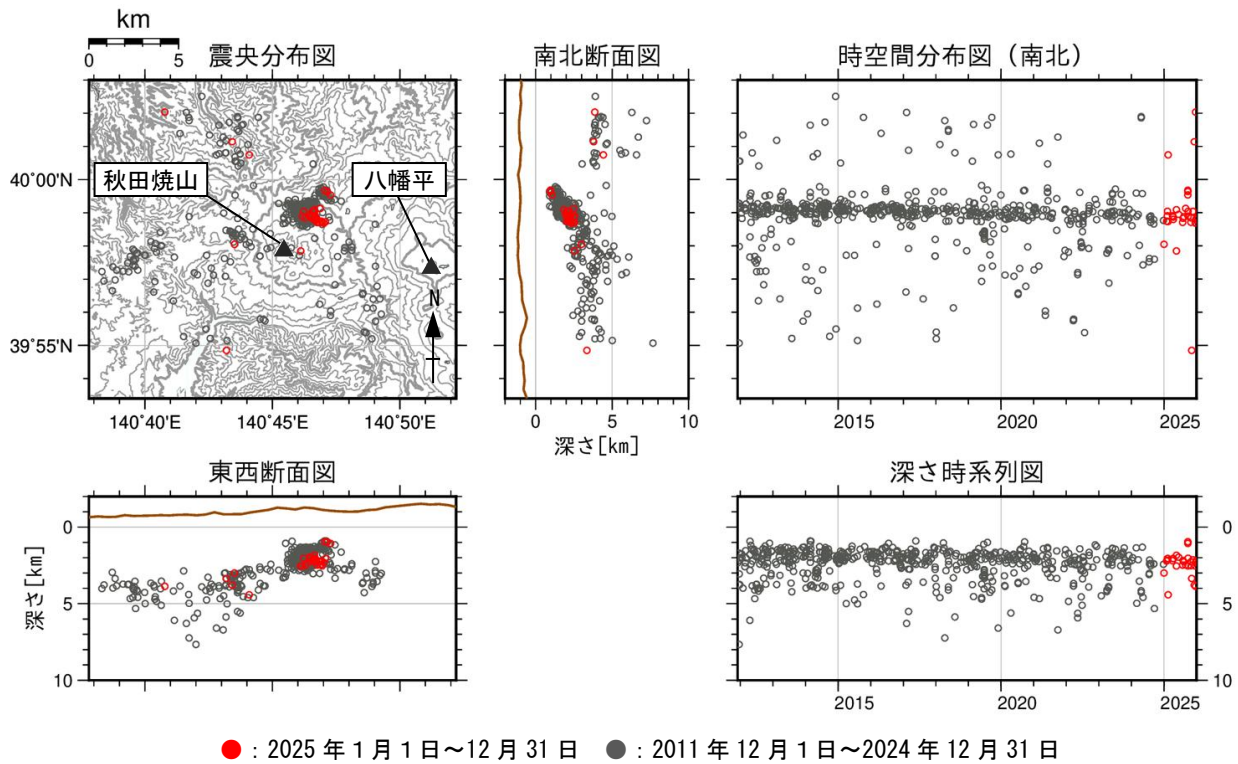


図 12 秋田焼山 地震活動 (2011 年 12 月～2025 年 12 月)

今期間、震源の求まった火山性地震は主に山頂の北側の領域で発生しました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

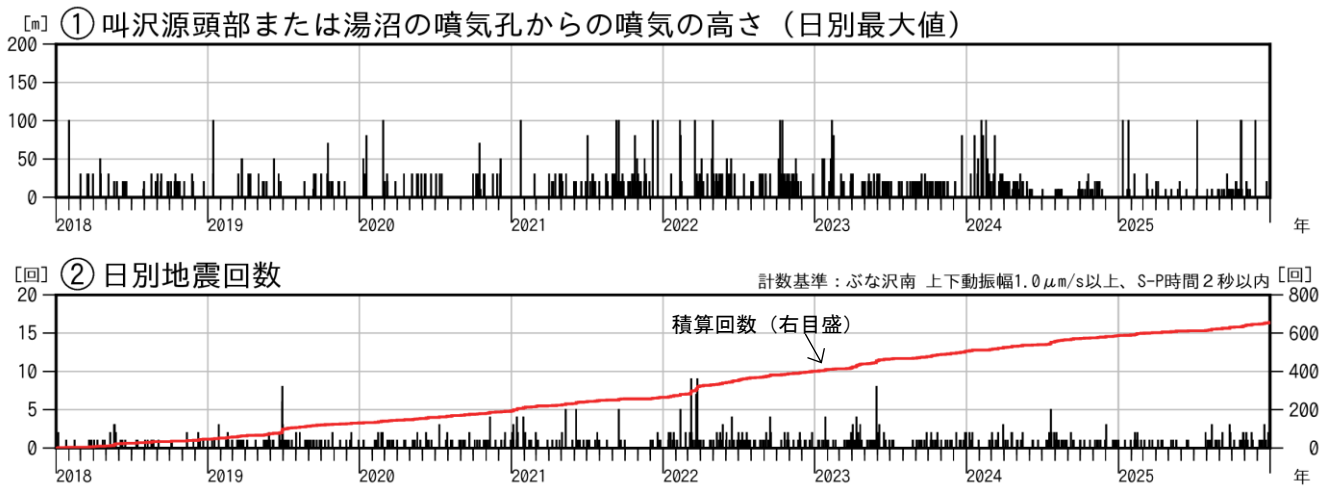


図 13 秋田焼山 火山活動経過図 (2018 年 1 月～2025 年 12 月)

噴気活動と地震活動は低調に経過しました。

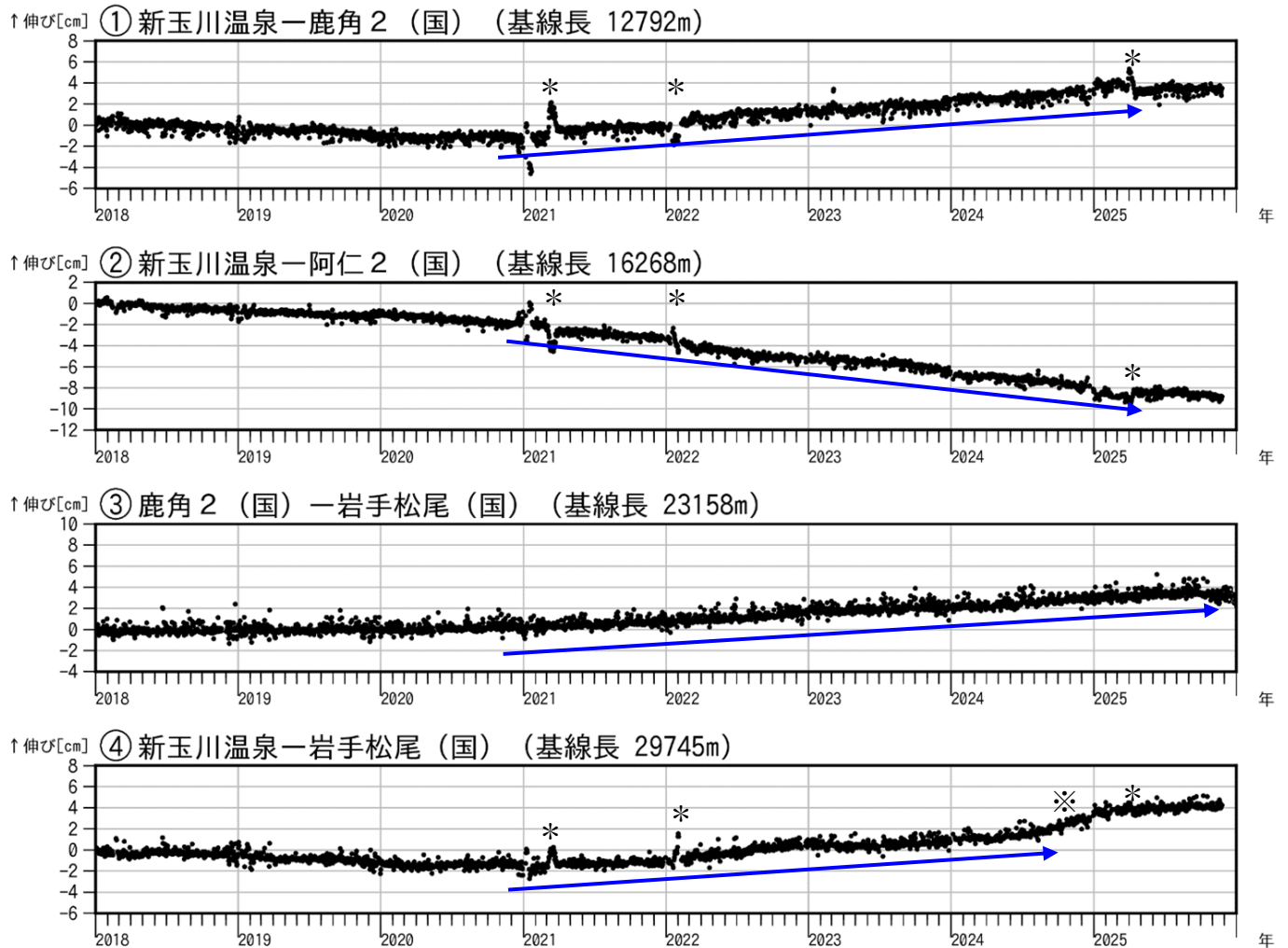


図14 秋田焼山 GNSS 基線長変化図 (2018年1月～2025年12月)

- ・ ①～④は図15のGNSS基線①～④に対応しています。
- ・ 空白部分は欠測を示します。・ (国)は国土地理院の観測点を表します。
- * : 2020年12月から2021年3月、2022年1月から2月及び2025年3月から4月にかけての新玉川温泉観測点の変動は、火山活動に起因するものではないと考えられます。
- ※ : 岩手山の火山活動に関連する変化と考えられます。

GNSS 連続観測で認められている2020年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）周辺の基線の伸びや縮みの変化は、新玉川温泉を含む基線を除いて継続しています（青矢印）。

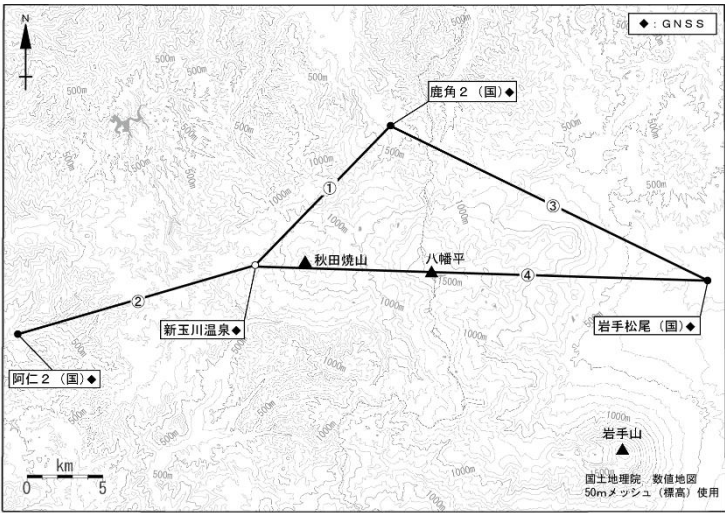


図 15 秋田焼山 GNSS 観測基線図
白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院

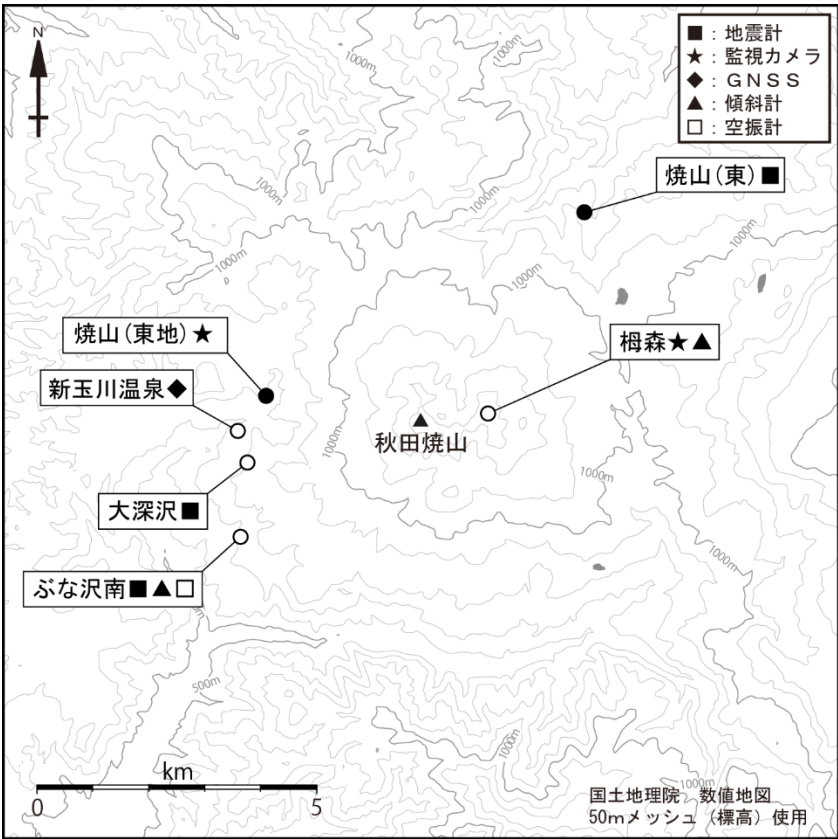


図 16 秋田焼山 観測点配置図
白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

表 1 秋田焼山 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		北緯	東経	標高 (m)			
地震計	ぶな沢南	39° 56. 71′	140° 43. 17′	738	-101	2010. 10. 15	広帯域地震計
	大深沢	39° 57. 44′	140° 43. 24′	813	-3	2016. 12. 01	
空振計	ぶな沢南	39° 56. 71′	140° 43. 17′	738	4	2010. 10. 15	
	大深沢	39° 57. 44′	140° 43. 24′	813	-3	2016. 12. 01	
傾斜計	ぶな沢南	39° 56. 71′	140° 43. 17′	738	-101	2011. 04. 01	
	大深沢	39° 57. 44′	140° 43. 24′	813	-3	2016. 12. 01	
GNSS	新玉川温泉	39° 57. 75′	140° 43. 11′	733	5	2010. 10. 01	
	大深沢	39° 57. 44′	140° 43. 24′	813	-3	2016. 12. 01	
監視カメラ	大深沢	39° 57. 44′	140° 43. 24′	813	-3	2016. 12. 01	可視及び熱映像